

違法コミック配信サイトに関するこれまでの取り組み

2011.1.17

デジタルコミック協議会

海賊版サイトには、スキャンレーションサイト、ファイル共有ソフトタイプ（Winny、Share など）、オンラインストレージ（OS）タイプ、動画投稿サイト、主に4類型。

- 1) スキャンレーションサイト ～ ACCS を軸に対応する
- 2) ファイル共有ソフトタイプ ～ 権利侵害の主体が不明確、海外サーバ、ウィルス等のリスクなどにより、現在まで未対応。
- 3) 動画投稿サイト ～ 削除要請ツールなどの整備が整いつつあり、各社での対応が可能。しかし、権利者サイドで申請しない限り削除しないという現状については不満あり
- 4) OS タイプ ～ ブログ・掲示板サイトと合わせると現在一番数の多い侵害タイプ。サイト側に削除要請を送り対応をしてもらえるものの、すぐにファイルが復活してしまい、いちごっこの現状。

講談社刊行の少年漫画作品 A について海賊版の実態を調査（期間：2010.4.13～2010.5.13）

※ A 作品の発行部数：全 24 巻累計 1,700 万部

※ TV アニメーション放映中

1) アニメーション第 2 話「You Tube」での総マッチ数： 345

累積視聴回数： 4,530,199

※You Tube での累積視聴回数はトラッキングサイト全体の 12%に過ぎない

2) コミック第 1 巻第 1 話漫画スライドショーのマッチ数： 55

視聴回数： 139,907

2009 年 11 月

・たぼろだ市場

ユーザーにアップロードする場を提供する仕組みそのものは特に目新しい物ではないが、仮想通貨モリタポを使ってファイルを売買できる点がより悪質。

※現在は個別のコンテンツはアップされていない

2009 年 12 月

英語圏 6 サイトに警告文の発送を行う。

2010 年 2 月

2009年12月に警告メールを送ったサイトのうち2サイトから下記返事があった。

- ① 自分たち（サイト運営者側）は、サイトにアップロードはしていない、アップロードをしているのはユーザーである。だから、自分たちに対する、アップロードを禁止する、という通知に記載されていた要請には簡単に応じることが出来る。
- ② サイトからの削除を求めるのであれば、DMCAに則った内容の通知（侵害された著作物の特定等）が必要であり、それを受け取ったら対応する。
- ③ 今回の通知の内容は非常に曖昧である。例えば、サイト上のどのコンテンツが著作権違反なのかも明確にしていない。

DMCA通知を作品ごとの一覧にして作成することはかなり大変な作業となる。

※ DMCA（デジタル・プレミアム・コピーライト・アクト）

DMCAは、DMCAの通知を法的に提示出来る者を、著作権保持者のみに制限する。

2010年4月

- ・オレンジひよこ HELP!

リンク誘導型のサイトで、これまで会員社が警告文を送ったものの効果なし。

- ・中国の侵害サイトについて

会員社より中国における14の侵害サイトの報告があった。

2010年5月

5月5日、アメリカにおいてFBIによるスキャンレーションサイトの摘発、並びにOneManga、MangaFoxにおけるコンテンツの部分撤去が行われた。

- ・FBIの動きについて

アッシュトUSA、東京ポップ、VIZメディア、バーティカル等がそれぞれFBIのシークレットエージェントへの相談や法務省へ書式提出していたが、それとは別に、アメコミの違法サイトに関してFBIの摘発が行われた。この問題に関して司法省はかなり前向きで積極的に対応する準備があるという表明もあった。

- ・OneManga MangaFoxにおけるコンテンツの部分撤去に関して

ユーザーの書き込みやたれ込みを受け広告主である企業がGoogleアドにクレーム。これを受けてサイト側が一部コンテンツを部分的に撤去した。

- ・今後のアクションプランについて

アメリカ司法省やFBIが侵害サイトに関して積極的に対応する状況にあるが、現状では被害状況を訴え出ているアメコミが中心で日本のコミック（交通量としてはアメコミの4倍もある）は未だに対応されていない。アメリカでは上述の出版社が協力して対応していく予定だが、日本の出版社もぜひ加わって欲しいと考えている。

具体的なアクションプランとしては、1) 日米共同のプレスリリースを発行する、

2) それでも違法コンテンツを撤去しないサイトは個別に弁護士を使ってクレームを出す（費用については1サイト 50万円～100万円程度）、といった流れになる。

2010年6月

アクションプランでもっとも費用のかからない日米共同プレスリリースより着手。

英語版リリースの効果はかなり高く、大手違法スキャンレーションサイト「mangahelpers」ではスキャンレーションの終了宣言が行われ、「one manga」も違法コンテンツのアップロードを事実上休止、また小規模のスキャンレーションサイトのいくつかもサービス終了宣言を始める。ただし、リリースを出しても閉鎖や削除の対応を取らないサイトに関しては、弁護士を使って警告文を出す必要がある。

全てのサイトに対しての警告文送付を行うと約1万ドル程度の費用となる見込み。

2010年11月

漫画全巻トレンドジップ（削除要請後すぐ別のブロガーで復活）などいくつかのサイトについて報告あり。

2011年12月

- ・「○○○研究所（○○○には個別の作品名が入る）」

『本サイトで公開している漫画著作物は全て、中華人民共和国の漫画作画受託業務会社2社（以下著作権者）が一次著作者であり、一次著作権者を有しています』などと謳った悪質サイトで、作品ごとのサイトでスキャンしたデータ（日本語）が閲覧できる。

ドメインtkはトケラウ諸島のものでプロバイダはもとより発信者を特定することも容易ではない。

- ・雑誌を毎号スキャンして載せているサイト。有料のストレージサービス（FILE SONIC）を使ったもの。

- ・「看漫画」

中国語ではあるが日本の漫画がほとんど（コミックスだけでなく、雑誌連載最新分も）読めてしまう違法サイト（サイト自体は会員制）で、App Storeに作品提供（ビューアーを購入すれば読み放題）していたことから発覚。App Storeでビューアー（価格800円）を提供しているのはLotus Mobile Softwareという会社で、デジコミ協会社員からApple Japan経由でクレームを付けたものの、当該ベンダーからは「看漫画から提供を受けているだけで、我々（ベンダー）は著作権侵害をしていない」という主張をしている。

なお、App Storeでの海賊版問題は書協でも問題視しており、必要に応じて協調。

以上